

令和 2 年 12 月 27 日

横浜市特定複合観光施設設置運営事業者選定等委員会  
榑原英資先生

横浜市精神科医会 会長 山口哲頭  
神奈川県精神科病院協会 会長 竹内知夫  
神奈川県精神神経科診療所協会 会長 斎藤庸男

謹啓

なおコロナ禍が猛威を振るうなか、いかがお過ごしでしょうか。

私たちは神奈川県内で精神科医療施設を営む、あるいは勤務する精神科医です。事業者選定等委員会の先生方へ IR 誘致に反対する医療者側から見た懸念をお伝えしたく、突然で失礼とは思いましたが要望書をお送りさせていただきました。

まず現状ですが、令和元年度あるいは令和 2 年度に実施した横浜市、神奈川県のギャンブル依存症等実態調査によれば、過去 1 年間にギャンブル依存症が疑われる人は神奈川県内で約 5 万 1 千人に及ぶこと、一方、ギャンブル依存症を対象とする専門医療機関は県内に僅かに 4 カ所のみであることが報告されています。専門医療機関 4 カ所が 5 万人を診察することは現実的に不可能であり、受診困難な患者さんが多数存在するであろうことが容易に想像されます。また、ギャンブル依存症に一度陥ると極めて難治であり、本人個人のみならず家庭、社会の幸福度を大きく棄損する事実が認められています。ギャンブル施設のある地域ではギャンブル依存症が増えること、ギャンブル施設に近ければ近いほどギャンブル依存症が増えるといわれています。多重債務、貧困、虐待、自殺をもたらすギャンブル依存症患者が増える可能性の高い新たなギャンブル施設の開業を看過することはできません。令和元年 12 月に記者会見した際のパワーポイント資料を添付しましたのでぜひご覧ください。

この文書は貴殿を含めた委員の皆様全員にお送りしています。また、横浜市担当者へもお送りしています。どうぞ、我々現在日々現場で精神医療に従事している精神科医の懸念をお汲み取り頂き、議論を進めて頂きますようお願いいたします。

末筆となりましたが、時節柄貴殿を始め皆様のより一層の御自愛をお祈り申し上げます。

謹白